

はじめに

当院の血液内科は、日本血液学会認定血液専門医研修施設、骨髓移植・臍帯血バンク移植認定施設として47床（内、無菌治療室22床）を有し、常時40～60人の入院患者に対応し、中国・四国地域でもトップクラスの規模を誇っております。また国立病院機構・中国地区血液疾患基幹病院として、岡山県全域からは勿論のこと香川県・広島県・兵庫県などからも広くご紹介頂いており、院内他科医師および

他職種（看護師、薬剤師、臨床検査技師など）と密接な連携を取りながらチーム医療を実践しております。

現在は、日本血液学会認定血液専門医・指導医を含めた4名の常勤医師と活気あるレジデント2名、血液志望内科専攻医1名の計7名で、外来患者と入院患者の診療を行っています。また急患にも対応できるように24時間のオンコール体制を組んでいます。

スタッフ紹介

角南 一貴（H3年卒） 臨床研究部長
 牧田 雅典（H8年卒） 医長
 吉岡 尚徳（H18年卒） 医師
 石川 立則（H21年卒） 医師
 村上 裕之（H27年卒） レジデント
 守山 喬史（H27年卒） レジデント
 藤原加奈子（H29年卒） 血液内科志望内科専攻医



外来表（2019年12月現在）

午前：受付8:30～11:00
 午後：予約のみ

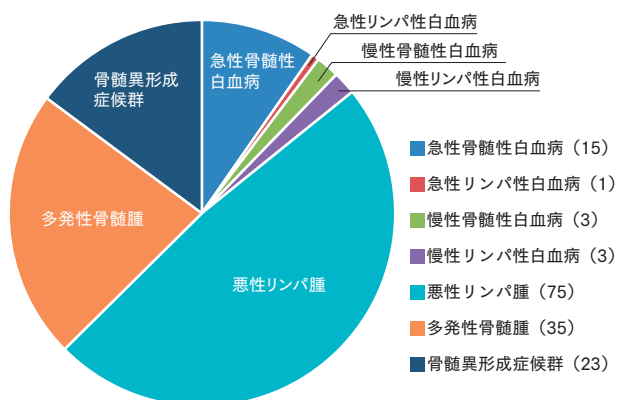
◇担当医は都合により変更・休診となることがあります。

	月	火	水	木	金
午前	吉岡尚徳		牧田雅典	角南一貴	石川立則
午後		造血細胞移植後 フォローアップ外来 (第2週 午後)	牧田雅典		フォローアップ外来

診療内容

白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍を中心に、さらには再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患を含め血液疾患全般の診療に取り組んでいます。また後天性免疫不全症候群（AIDS）、HIV診療も行っております（外来日 要確認）。週1回の全員による入院患者回診、カンファレンス、検鏡カンファレンスにより、症例毎に検討を重ね治療を決定しています。

主要疾患別新規患者数（2018年度）



1) 白血病/骨髓異形成症候群

急性白血病に対しては化学療法、分子標的治療から造血幹細胞移植に至るまで最新の知見に基づいた治療を行っています。慢性骨髄性白血病はチロシンキナーゼ阻害薬(イマチニブ、ニロチニブ、ダサチニブ、ボスチニブ、ボナチニブ)による外来治療を行っています。慢性リンパ性白血病に対しては、標準的化学療法のほか、抗体医薬(オファツムマブ、アレムツズマブ)、分子標的薬(イブルチニブ)の導入も行っています。骨髓異形成症候群に関しては、従来の化学療法に加え、脱メチル化剤(アザシチジン)や-5q症候群に対するレナリドミドも積極的に使用しており、適応症例には造血幹細胞移植まで行っています。

2) 悪性リンパ腫

化学療法、抗体医薬(リツキシマブ、オビヌツズマブ)、放射線療法および造血幹細胞移植(自家および同種)を組み合わせた標準的治療を基本として、個々の病状に応じて最良と考えられる治療の提供を心掛けています。悪性リンパ腫の代表的な治療であるCHOP療法(またはR-CHOP療法)などは、初回入院治療を行い、2回目以降の治療は基本的に外来で行っています。

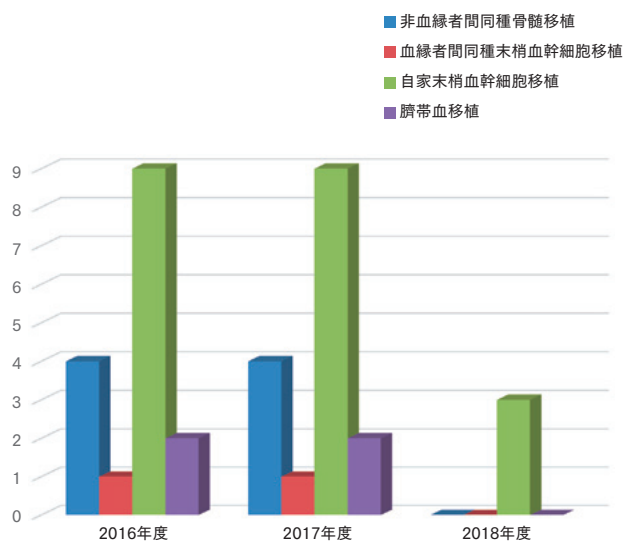
3) 多発性骨髄腫

多発性骨髄腫の診療に関しては、昭和50年代から力を入れており、日本でも有数の専門施設と認められ、近隣ならびに遠方からの紹介もあり多数の症例を診療しています。近年、多発性骨髄腫は新規薬剤の開発が活発であり、分子標的治療(ボルテゾミブ、カルフィルゾミブ、イクサゾミブ、レナリドミド、サリドマイド、ポマリドミド、パノビノスタット)、抗体医薬(エロツズマブ、ダラツムマブ)など積極的に取り入れて

います。若年症例には自家および同種の造血幹細胞移植も行っております。症例も多いことから新薬開発治験(臨床試験)も積極的に行っており、難治症例に対していち早く保険適応外の薬剤を使用できる場合があります、症例によっては有効なこともあります。

4) 造血幹細胞移植

当院は骨髓バンクおよび臍帯血バンク認定施設であり、成人の造血幹細胞移植においては岡山県で一番早く導入した実績があります(平成3年に導入)。特に多発性骨髄腫における造血幹細胞移植に関しては開始時期および症例数ともに日本の先駆的な立場にあります。



臨床研究

岡山大学血液・腫瘍グループの関連施設として、大学と協力し種々の臨床研究に協力しています。また国立病院機構血液グループ、日本成人白血病研究グループ(JALSG)、日本細胞移植研究会(JSCT)および日本臨床腫瘍グループ(JCOG)などの多施設共同研究に積極的に参加し、白血

病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫を含めた血液疾患の最新治療の開発に努力しています。また多発性骨髄腫を中心に多くの血液疾患において新薬開発治験も取り扱っています(随時更新、問い合わせ要)。

医師教育

当院は日本血液学会認定血液専門医研修施設であり、多くの初期研修医、後期研修医、レジデントが血液疾患を学びに来ます。次世代を担う彼らたちが知識を身につけ、血

液疾患で苦しむ人達に満足な治療を提供できるように教育指導(学会発表、論文作成を含む)を行っています。

最後に

近年の高齢化に伴い、造血器悪性腫瘍を含め血液疾患も増加傾向にあります。また治療は日進月歩であり、血液疾患分野についても例外ではなく、治療は複雑になり細分化されています。またそれに伴い患者さんの要求も高くなって

おり、それに対応できる病院が必要と考えられます。当院の血液内科は、中国地区血液疾患基幹病院として地域近隣病院と密に連携し、さらに遠方からも来院される多くの患者さんの要求に応えるべく努力したいと思います。